

くじら石とはさみ石

奈良県

むかし、尾山の天神さまからちょっと下ったところに、大きな深い岩穴がありました。そこに天狗が住んでいました。その尾山から、五月川をへだてた川向かいに、嵩山という高い山がありました。その大きな松の木にも、天狗が住んでいました。

ある日のこと、尾山の天狗が、嵩山の天狗に、

「おおい、嵩山の天狗さんよお。このごろ暇でしかたがない。なにかおもしろいことでもないかのう」と呼びかけました。

嵩山の天狗は、

「おお、おれも暇でしかたがない。何かやってみようじゃないか」といいました。

「何をしようか」

「そうだなあ。石で何か作ってみようか」

そこで、尾山の天狗が、

「おれは、いま流行りはじめた、はさみというものを作ってみるわい」というと、嵩山の天狗は、

「おれは、海にいる大きなくじら、あれを作るわい」といいました。

「よし、では早く作ろう。おたがいに見せあいしようじゃないか」

あくる日から、カッチンカッチンと岩をきざむ音が、月ヶ瀬の五月川の山あいにとだましました。毎日毎日、カッチンカッチン、カッチンカッチン。そうして、ようよう。

「おおい、できたかあ」

「おおい、できたぞう」

尾山の天狗が、

「ようし、ではいちど、おれところへ見にきてくれ」というと、嵩山の天狗は、ばああと山を下りて川を上って、尾山まで来ました。すると、ものすごく大きなはさみができていました。

「うわあ、みごとだなあ」

嵩山の天狗は、びっくりしました。

「よし、こんどはおれのところへ見にこいよ。ものすごくくじらを作



ったんだ」

そういいながら、「とにかく一杯飲もう」と乾杯して、尾山の岩の上でふたりきげんよくお酒を飲んでいました。そのときいきなり、ぐらぐらぐらっと、大きな地震がおきました。

さあ、たいへんです。ふたりの天狗は、あわてました。尾山の天狗は、はさみを両手でガツとつかまえました。嵩山の天狗は、山のとっぺんに乗せてある大きなくじらがころがり落ちないように、走ってつかまえにいきました。ところが、嵩山の天狗がもうすぐ山に着くいうところで、くじら石は、ゴロゴロゴロツともものすごい音をたててころがり落ちました。

それで、五月川のそばにはくじら石ができ、天神さまの下にははさみ石ができました。今はダムができて、ふたつとも沈んでしまいました。

原話：『子どもと家庭のための奈良の民話2』

共通語再話：村上郁